

担い手 インタビュー



学生時代の文化祭や 部活動が原体験に なって今がある

昔ながらの雰囲気に惹かれ永住するつもりで二年前に日本橋に越してきました。この地で友人や仲間を作り繋がっていきたい気持ちがありましたが、だから、町会や自治会には素直に加入しましたし、運営側にまわり活動することにも抵抗はありませんでした。

一期受講生 塩澤正人さん
中洲町会 / Bon Dancers TOKYO

ティ運営の基本的なスキルや情報を学びたいと思い、養成塾に参加しました。

現在、自分の活動の核となっているのが「盆踊り」のネットワーク。そもそもは盆踊りフレークの友人から勧められ町会の盆踊りに参加したのが始まりでした。それをきっかけに”次はあっちの町会の盆踊りへ行ってみようか”などと町会以外にも出向いて参加しているうちに、一緒に踊る仲間が増え、繋がりの幅が広がりました。本来、各地で行われる「盆踊り」大会は、町会自治会などが地元の方のための地域文化の交流の場として実施しているのですが、他地域の方でも参加OKとなれば、純粋に盆踊りを楽しめる交流の場となります。そこで、

踊りを知ることができたり、中央区外にもつながりができたりして嬉しく思います。おそろいの浴衣も作ったので、ゆるく楽しいコミュニティとして継続していきたいと思います。

(平成二十九年度インタビュー)

*<http://bondysalt.jimdo.com/>



町会を担う次の世代に どうバトンタッチする か考えています

一期受講生 大山幸子さん
堀一共和会副会長



以前は人気のある吉祥寺などに住んでみようかな、と考えていました。しかし良くし

てくださった勤務先（日本橋）の創業者に度々地域の交流に連れ出していたいたりするうちに、自然の流れで今のが家に越してきました。会社の町会がこの家の隣町というご縁も感じてお手伝いをはじめました。が、会社にお世話になつたので自分もその地で何かがしたい、という意識もありました。

町会行事は年間を通して数多くあり、なんとか慣れてきた頃、当時町会長さんが若手に任せていく決意をされて自分が女子部長を仰せつかり、勢いで十年関わっています。

しかし、外からやつてきた私が女子部の部長など任されて良いものかと迷いがあります。でも子供の頃に地域で味わう「思い出」や「体験」があることは素敵なことですし、それを創り出せるのなら！と思ひ受けました。

十年間女子部を任せてい



るうちに、近所にマンションが急激に増えてきました。同時に、マンションの方々も参加したくなる町会ってなんだろ？ どうすればよいのだろう？ と考え始めるようになります。それで養成塾へ。

塾では、やっていることが言語化されたりやりたいことが強制的に明確にされたりといふ貴重な経験を得て、担当手とも出会えました。「壁」は様々なシーンで必ずあります。が、応援し合い思いを共有できるネットワークを有り難く実感しました。

副会長を兼務している今は町会のこれから十年を考える個人的には自分が関わる、「動物と暮らしやすいまちづくり会」の協働事業にもコミュニティのノウハウを活かしていきたいと考えています。これからオリンピックにむけて、人もペットも増えていきます。動物への思い入れが強い私にとっては、地域の飼い主に適切な情報を伝えていくことも今後の課題です。

（平成二十九年度インタビュー）

*<http://hcfa.jp/>

遠巻きに見ているなら 参加して楽しみたい

一期受講生 島田みちよさん
浜町二丁目親合町会



やるかやらないかだったら
やる、何かに参加するなら企
画や運営にも関わってみたい
：もともとそんな性分です。
そのうえ、困っているヒトや

コトにも目がいってしまふ。

お節介“なのかもしません
ね（笑）。しかしそれではと実
際に何かをしようとして人集
めの声がけなどをしてみるの
ですが、なかなか思うように
はいかない。ある時限界を感
じたのです。

町会の回覧板には常にたく
さんの情報があり、気になつた
案件は写メを撮つておくのです
が、その中に養成塾の案内があ
りました。そしてここに何か
ヒントがあるのではないかと感じたの
が養成塾受講のきっかけです。

誰かを何かの型にはめよう
とする不得てしてうまくいか
ないですし、何かしようとお
誘いすると離れていく人もい
ますよね。地域に暮らす人々
は年齢・国籍・考え方、すべて
において様々な違いをもつて
いらっしゃり、当たり前に多様
性があります。違いのある人
たちがお互いを認め合える居
場所があることこそが重要で、

それによつて人が、組織が、活

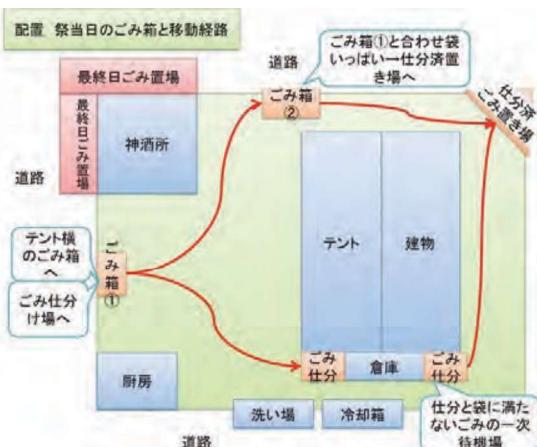
発化し効果を高めることができ
るという考え：「ソーシャル
キャピタル（社会における人の
信頼関係・つながりを表す概
念）」の価値をこの養成塾で認
識することができました。

例えば、お祭りのごみ。カ
レーなどを提供すると一日五
百食分のごみがでたりします
が、分別できないもの凄く
大変。以前はそんな状況を見
てこれじゃいけない！でもど
うしらよいものか？？と思ひ

くあるメンツドにも触れるこ
とができましたので、解決策
の選択肢が広がりました。

今後も、互いの違いを真摯
に認めつつ、さらに一步踏み
出していきたいです！

（平成二十九年度インタビュー）



悩んでいました。今回挑戦と
して分別と保管場所を貼り紙
でお願いをしてみましたところ、期待以上のゴミ削減につ
ながりました。視覚的・デザ
イン的解決で行動が変わった
のではないかと思います。

養成塾では、ビジネスによ
くあるメンツドにも触れるこ
とができましたので、解決策
の選択肢が広がりました。
今後も、互いの違いを真摯
に認めつつ、さらに一步踏み
出していきたいです！